

## 第11回総合教育会議 会議録（概要）

日時：令和4年3月15日（火） 午後4時00分～午後5時00分

場所：水俣市役所3階 市長会議室

### 【水俣市総合教育会議出席者】

市長	高岡 利治
教育長	小島 泰治
教育委員	平尾 雅述
教育委員	堀 浄信
教育委員	山田 誠次
教育委員	本田 恵津子

### 【市長部局：事務局及び関係出席者】

総務課長	梅下 俊克
スポーツ交流課長	中村 俊彦
総務課 行政管理室	濱野 徹
総務課 行政管理室	園田 彩乃

### 【教育委員会：事務局出席者】

教育次長	坂本 禎一
教育総務課長	赤司 和弘
生涯学習課長	梅下 彰
教育総務課指導主事	福山 達郎
教育総務課 総務係	田上 朋史
教育総務課 総務係	白坂 優季

### 【傍聴者】0名

1 開会 （司会進行：総務課 行政管理室 濱野）

2 議事

（1）協議事項

水俣市教育大綱（案）について

高岡市長 それでは、早速ですが今回のテーマは、「水俣市教育大綱（案）について」となっております。前回の会議では、現在の教育大綱について、「今後の方向性や方針」について委員

の皆様からいろんな意見をいただきました。前回、教育大綱についていただいた内容について、少しお話したいと思います。

まず、山田委員からは、教育についての全体的なイメージとしてお話がありました。その中で、先生方の職場での人権意識、人間関係についてお話があり、道徳や人権教育などの指導においても、先生同士の日常生活の何気ない会話の中からも子供たちは何かを感じることがあるというお話でした。それと、親ガチャ（子供は親を選べないという意味）という言葉聞くこともあるが、意識の低い家庭に対してもしっかりと目を向けてほしいというお話もありました。

堀委員からは、大綱中の「熱意あふれる人材」という文言について御意見をいただきました。日本人はよく頑張れと言いますが、外国の人はがんばれと言われると、もう頑張っているけど、と一歩引いてしまうところもある。教育には、SDGs的に自分のこととして子供たちが主体的に取り組むことが大事で、表に出る熱意もありますが、目に見えなくても静かにがんばっている熱意もある、という御意見でした。

本田委員からは、現在の教育大綱は、各項目のバランスが取れていると思う。その中で1番目の項目の中に「活気ある水俣」とあるが、教育委員会だけでなく、他の課も連携して一体となり、学びあう環境を作ることが大事である。また、3番目の項目の中に「社会教育を充実」とあるが、高齢者が元気に活動しているのと比べ、仕事をしている世代にとっては、場所がない。何かを学びたいと思ったときに、その場所が見つかるようなそんな取り組みも考えていただきたい、といった御意見をいただきました。

平尾委員からは、知・徳・体は昔から言われているが、やはり、心を耕し、豊かにしないといけない、といった御意見でした。教育はその先まで考えて、子どもたち一人一人の個性を生かすためには、家庭だけじゃなく地域社会でも育んでいくという考え方を持つべき、といったお話でした。

小島教育長からは、2番目の項目について、各学校へのクーラーの整備や、一人一台のタブレットの導入を行ったが、それから先の成果を出すのはそれぞれの教員にかかっている。そのため、「教員の指導力向上」という文言も入れられれば、とのことでした。芦北管内は学力が低迷しており、その原因として家庭での学習時間が少なかったり、計画を立てて学習できていないことなどがあるので、学校と家庭とが連携して取り組む必要がある、とのことでした。また、教育大綱の中に、「誰一人取り残さない」というSDGsの文言を入れられれば、とのお話もありました。

その他、堀委員から資料を準備いただいて、子ども食堂についてお話をいただきました。貧困や不登校の子どもたちに対して、大人や地域など、色々な人が関わりを持って手を差し伸べる必要がある、という意見が委員の皆様から出ておりました。以上が、前回会議の概要でした。

それでは、今回の協議事項に入りたいと思います。  
協議事項「水俣市教育大綱（案）について」、事務局から説明をお願いします。

#### ※事務局から説明

先ほど市長から、前回の会議で委員の皆様からいただいた御意見についてお話がありました。その皆様からの御意見を踏まえ、教育大綱の（案）を事務局で作成しました。ご説明していきたいと思います。

お配りしております、新旧対照表をご覧ください。

まず、次の教育大綱の期間は、令和4年度から令和7年度までとなっております。基本理念「郷土の明日（あす）をつくる、心豊かな人づくり」についてはそのままとし、次の「水俣市の教育 3つの決意」について、いくつか修正をしております。

1番目の「水俣を担う熱意あふれる人材を育成します」について、「熱意あふれる」とは表に出る熱意もあるし、目に見えない熱意もある、などといったご意見がありました。

それぞれの特性を生かしながら水俣の将来を担っていく、自分が考え行動していく、持続可能な地域社会の未来の創り手となっていく。そういった人材を地域全体が一体となって育てていく、といった意味も含め、「水俣を担い、持続可能な未来を切り拓く人材を育成します」という表現にしました。

また、同じ枠内の「熱意あふれる」の部分も「持続可能な未来を切り拓く」という表現に変更しております。

2番目の「知・徳・体を育む学校教育を推進します」については、「教員の指導力向上」や「一人ひとりの個性を活かす」といったご意見がありました。

そこで、枠内の表現を「誰もが楽しく学ぶことができる学校づくりを推進し、教員の指導力向上を図り、誰一人取り残さず」とし、次を「一人ひとりの個性を」とし、「個性」の文言を追加しました。これは、いただいたご意見や、SDGsの「誰一人取り残さない」という理念も踏まえております。

次に、3番目の「水俣の力と誇りを育む社会教育を推進します」については、ある世代にとっては、学びたいときに学ぶ場所がない、といったご意見がありました。そこで、市民の一人一人が学びたいときに学べる、いつでも生きがいを感じることができるよう冒頭に「生涯にわたる」という文言を追加し、「社会教育」を「学びの場」とし伝わりやすい表現にしました。今回は、委員の皆様からのご意見やSDGsの視点なども踏まえて修正をしております。

す。

今後のスケジュールですが、教育大綱については、本日の総合教育会議で再度皆様からの意見を踏まえ、市長決裁により改定する予定です。事務局からの説明は以上です。

高岡市長 ただいま事務局から説明がありましたが、何か御意見、御質問はありませんか。

堀委員 今回の教育大綱、前回の会議での意見も取り入れていただき、素晴らしい大綱ができたと思います。ただ、1点だけ提案させていただくと、人材という言葉の「材」ですが、最近、人は財産だという意味を込め、「財」という文字を用いることもあり、今回もそのようなことが可能か提案したいと思います。

高岡市長 堀委員からそのような御意見をいただきましたが、それも含めて御意見はございますか。

平尾委員 今回の教育大綱にSDGsの文言が反映されたのはすごくいいことで、将来への決意表明であり、人を大切にして、プラス思考で人材育成を行うということだと思います。教育委員会でも検討してもらって、各学校へ示す際には、その辺も含めて説明すればいいと思います。

2番目の文章にある「誰一人取り残さない」というのもいいと思います。先日、不登校を経験し、現在、大人になった方々の意見が掲載してあるのを新聞で読みました。不登校の原因は人それぞれで違います。もし、そういった問題が学校内で解決できるとしたら、先生や友達の声掛けが大事です。知・徳・体を学ぶための根底には人権があります。今回の教育大綱を各学校に配布する際には、そういう説明をしていただけたらと思います。

本田委員 私も今回の教育大綱について、3つの文章全てがいいと思いますが、特に2番目の「誰一人取り残さない」、「一人一人の個性を大切にする」というのは心強い言葉だと感じました。3番目の「社会教育」を「生涯にわたる学びの場」に変えたことも、より具体的に実感できるようになりました。社会教育という言葉では、何かぼんやりした部分がありましたが、これで私たちにとって学べる場が充実していくのかなと思います。それと、「人材」を「人財」とするのは、人は材料ではなく財産という感じがしていいアイデアだと思います。

山田委員 「人材」を「人財」とするのは、意味が込められていていいと思います。賛成します。今回の教育大綱は、本当にいい改正だと思います。誰一人取り残さないという考え方は、今後の社会、人間社会全体に求められています。2番目の学校教育の部分にこの言葉が入っていますが、福祉分野も含め、社会全体がこの考え方で行く必要があるので、今後の学校教育に生かしてほしいと思います。

小島教育長 私からは、意見ではありませんが、来年度の学力向上に関する取組について説明します。まず、水俣市の学力の課題として、1点目に国、県の平均と比較して家庭学習時間の少ないことがあげられます。2点目に、各学校とも落ち着いて授業は実施できていますが、本当に力がついているのかどうかに関して、粘り強く理解できるまで徹底して指導できているか、その辺が水俣市は弱いと思います。

お配りした資料を見ていただきたいのですが、これは熊本県が示した「熊本の学びアクションプロジェクト」という資料で、令和3年度からの3年間の取組です。柱が2本あり、一つ目が「誰一人取り残さない学びの保障」であり、定着確認の徹底が記載されています。

2つ目が「教員一人一人の授業力向上」となっております。

資料裏面は、芦北管内の実践事項で、来年度は柱①を取組1に、柱②を取組2に密接に関連付けて行っていただく予定ですが、この2つの取組を徹底的に行えば、水俣市での学力の課題は解決すると考えています。4月に入ってからでは遅いので、先日、校長先生方にお集まりいただき、次の3点をお願いしました。

1点目は、先生方が意識して教えていかないと効果は上がらないので、取組1と取組2で重点項目を各学校で検討していただいて、校内研修に位置付けてくださいということです。

2点目は、特に取組1の③「单元ごとに最低限習得すべき事項が身に付いているかどうか確認し、身に付くまで粘り強く指導している」を必須事項として入れてもらうように、各学校校長をお願いしました。

そして、3点目としてタブレットも活用してくださいということです。

今後、具体的に詰めていき、校長会、教頭会など一丸となり課題解決に向けて取り組みたいと思います。

平尾委員 今のお話は、非常に具体的でいいと思います。ただ、取組1と2に取り組む前に一つやる必要があると思います。誰一人取り残さないというわけですから、不登校の子どもたちについて、何らかの対策ができないでしょうか。例えば大学では、以前はそれぞれが履修教科をすぐに決めていたけど、最近はそうすることができずに辞める子がいるようですので、そういう子が出ないようにと、入学後、最初の1週間でオリエンテーションを行うことがあるそうです。学校教育でも人間関係づくりのオリエンテーションを導入すると、この資料が生きてくるのかなと思います。その辺を丁寧にやっていくことが、誰一人取り残さない学びの保障の底辺になると思います。

小島教育長 学力向上と支持的風土づくりは、学級づくりの両輪ですから、土台としてしっかりと取り組みます。

平尾委員 SDGsの「誰一人取り残さない」という言葉は、次の世代に向けて教育環境を変

えて行きますということですから、ぜひとも今まで通りの形ではないところで取り組んでいただきたいと思います。

堀委員 子どもたちがより良く成長するために、こんな話を聞いたことがあります。子どもに好きなペンを選ばせて勉強させると、いくつかの選択肢の中から自分が選んだということで自己肯定感が高まり、能力を引き出すことができるということが証明されているようです。

多様性を求めるという観点でいうと、不登校の子どもたちも自分で選べるように選択肢があるといいなと思います。東京には不登校の子供たちのための公立学校もあるとのことで、社会的な選択肢が整備されればと思います。

山田委員 教育長の説明を聞き、この資料は具体的な内容が示されており、いいと思いますので、ぜひ、先生方に浸透していくことを願います。ただ、一つ気になる点があり、「最低限」というのがどれくらいなのか、統一化されてはっきりしているのかと心配になりました。最低限やるべきことと、目指すゴールの姿は人それぞれで違うと思います。

私としては、最低限の部分を大事にしてほしいと思います。そしてプラスアルファの部分は、それぞれ身に付けたい人たちが自発的に頑張ればいかなと思います。

小島教育長 学習指導要領で、基本的なことは決めてあります。熊本県学力調査では、概ね満足という回答があります。その辺を各先生方が意識して取り組んでいただきたいと考えています。

高岡市長 教育大綱以外でも、何かお気づきの点などありませんか。

山田委員 柱①の部分に記載がありますが、子どもたちが教えられたことを習得して、先生方がそれを見て、頑張った部分を褒めてあげるとか、そういうのが大切だと思います。先生方は本当に多忙で大変だと思いますが、毎日じゃなくてもいいので、気づいたときにはそういう対応をしてほしいと思います。地味なことですが、それらの繰り返しが、子どもたちのやってよかったという気持ちを育てることになると思います。

小島教育長 私も資料を見てはっとしたところですが、なかなか普段は意識できないことですね。先生たちもそういう視点で子供たちを見て、認めてあげれば向上していくのかなと思います。

高岡市長 他にはございませんか。教育委員の皆様以外の出席者の方からも一言いただければと思います。

坂本教育次長 今回、事前に改正案を確認させていただきましたが、教育大綱にいい言葉が入ったと思いました。大綱ですから本質的な部分は変わらず、それをどう表すかの話だと思います。最初に見たとき、1番目の「持続可能な未来を切り拓く」というのがあり、これは何だと言われると難しい部分もありますが、調べてみると各企業など色々なところでもこの表現が使われており、イメージ的にこういう言葉でアピールした方がいいのではないかと思ったところです。

2番目では、「教員の指導力向上」と「誰一人取り残さず」という言葉が入ったことで、先生方がこれを見られたときに、先ほどからの資料でも示された内容が形になってくるのかなと思います。

3番目についても、「生涯にわたる学びの場」と変更しました。ついつい我々行政は使い慣れた言葉を使いがちですが、こうすべきだったなと感じました。

赤司教育総務課長 私も事前に確認しましたが、今回の大綱は令和7年度までということで改定されます。いい大綱ができたので、各学校に対してどう伝えていくか、そこを考えなければいけないと思いました。教育大綱に基づき教育委員会で策定する事業構想と併せて、周知方法等を考えます。

福山指導主事 県の取組があり、それを受けて芦北管内の取組があり、さらにそれを受けて水俣市の教育大綱がありますが、現場の先生方の共通理解がないと成果は上がらないと思います。教育長が先ほど述べられたように、あらゆる場面で徹底して、共通実践ができるようにしなければならないと思いました。

梅下生涯学習課長 毎月11日に、いい朝あいさつ運動を行っていますが、水俣の子どもたちは、素直でいい子たちばかりです。今回の教育大綱に沿って、学校教育がなされて、子どもたちが伸びて行けばいいなと思います。

中村スポーツ交流課長 今回の議論からは逸れるかもしれませんが、市長の3つ目のビジョンにおいて、スポーツコミッションを立ち上げ、大きなスポーツ大会や合宿を誘致して地域活性化やスポーツ振興を行います。子どもたちにはそのような大会等に触れていただき、子どもたちの健全育成にもしっかりと取り組んでいきたいと思っています。

梅下総務課長 市長部局の総合教育会議の事務局として、教育委員会からのご意見をうかがっているところですが、我々は市として各種施策を進めていく上で、国からは地方創生ということで地域で考えて盛り上げていくようにと言われているところですが、そのような中、学校や子どもたちとの兼ね合いもありますので、こうやって教育委員会とともに、教育大綱を考える場があるのはすごくいいことだと感じました。

堀委員 (配布資料説明)

市長 ありがとうございます。ただ今の件も含め、他に何か御意見はございませんか。

山田委員 仕事で迷惑をかけたくないからと悩みを抱えて困っている場合は、一人だけで頑張りすぎると周囲も不幸になるので、そんなときは周囲に助けを求めて、手伝った人と一緒に仕事を成し遂げ、喜びも一緒に分かち合うことができるような人と人の喜び合える関係を作れたらいいなと思います。「誰一人取り残さない」というのは、大事なことで、それぞれの主体性を大事にし、当事者意識を持ち、必ず自分は社会に関わっているんだと思ってほしいです。

先日の市長選挙は投票率が低かったですが、その辺も市民の当事者意識の低さが現れたのかなと思いました。我々みんながもう一度その辺の意識を取り戻す必要があると感じましたが、子どものうちから、当事者意識が持てるように育ててあげたいし、そんな町全体の空気、雰囲気が必要で、子育てについても、親だけの責任ではなく、地域みんなで誰一人取り残すことなく育てるという意識を持てればと思います。

平尾委員 コロナの影響で各学校での体験的な学習の機会が減っていますが、要請があれば地域でも手伝える部分があるので、学校だけで頑張るのではなく、地域にも声をかけてほしいと思います。

本田委員 「誰一人取り残さない」というのは、すごくいい言葉だと思いますが、ただ、よく考えると実際はどういうことなのかなとも思いました。最低限分かるころまで学力を引き上げたりすることなどかなとは思いますが、みんなが楽しみながら勉強に取り組んでくれたらと思います。先生からの声掛けにより、褒められて上達するというのは大事なことで、周囲との比較ではなく、過去の自分と比べてどれだけ成長したとか、そのような声掛けが大事だと思います。担任の先生が変わったからということではなく、学校が一体となり子どもたちを見守る環境になれば、子どもたちも先生がいてくれるという気持ちになるでしょうし、そうすると自然に学力も上がり、さらには学校に行くこと自体が楽しい、先生に会うのが楽しいという学校になればいいなと思います。

学校に登校できない子が、昔と比べて増えました。社会も変わってきているので、学校以外にもそのような子どもたちが集える場所が必要です。水俣市として、そのような環境の充実もお願いします。

それと、学力以外にも気になることがあり、コロナ禍で子どもたちの体力が落ちてきています。部活動も軌道に乗れない状態です。勉強をするのにも体力は必要だと思いますので、子どもたちの体力向上にも目を向けていただければと思います。

高岡市長 前回の総合教育会議で「親ガチャ」という言葉が出ました。子どもは親を選べないということですが、まさにそうだなと思います。そして、同じことが学校にも当てはまると思います。子どもたちは先生を選ぶことはできません。先生の存在は、子どもたちの人生にある程度の影響を与えます。

私の体験上、小学校高学年の時に、成績のいい子だけひいきをする先生がいて、それで悲しい思いをしたことがあります。

中学生になると、美術の授業で、どうやったら絵をうまく書けるか聞いたら、それは才能だよと言われ、絵を描くことから遠ざかるようになり、今でも苦手なままです。

先生というのはすごくやりがいのある仕事です。責任も伴います。子どもたちにとって本当に貴重な存在で、私も水泳をやってきましたが、厳しい先生と出会い、その中でも愛情のある指導をいただき、今の自分があると思っています。先生との出会いは巡り合わせかもしれないませんが、その辺については、我々大人が日々真剣に向き合っていくべきことだと思います。

新任の先生は右も左も分からずとにかくがむしゃらに頑張られると思いますが、5年、10年と経過するとある程度効率的な指導方法を覚え、テクニカルに対応し始めることがあると思いますが、子どもたちはそういう部分を見抜いています。本当に愛情をもって接しているのかどうかですね。

我々が教育大綱を掲げる以上、子どもたちにどうやって示すかが大事です。私自身も、今の立場の中で市民の皆様に対してどういうことができるのか、日々考えています。各学校の先生方についても、自分が受け持った子をどのように育てていくのか、考えていただきたいと思っています。

山田委員 教育大綱はすごくいいものができましたが、水俣市のホームページを見ると、教育の部分になかなかとり着けません。他にもコンテンツがたくさんあるため、大変だとは思いますが、市民の皆様が、水俣の教育は何をやっているのか、見たいときにすぐ見つけられるようにしていただけたいです。業務連絡的な項目だけではなく、思いを伝えるような項目もあれば、それを見た市民の皆様も感じることもあると思います。

それと、私自身が保育園を経営し、子どもたちと触れ合う中で思うこととして、最終的に子どもたちに身に付けてほしいのは、自分自身が幸せになる力です。それは自分だけのための力ではなく、社会の中でみんなと力を合わせ、自分とともに周囲の人たちも幸せにするための力だと思います。

堀委員 私の所属する法人でも気を付けていますが、資料作成の際のフッターの付け方として、スローガンとして大事な言葉を設定しておいて、困ったときにはそこに立ち返ることができるようにすればいいと思います。

高岡市長 教育大綱を広く市民の方にとすることは、担当課とも協議しました。各学校での周知だけではなく各家庭に対しても、水俣市は子どもたちにこういうことをやっているんですよと示すことが必要かなと考えています。

各学校には校訓が掲示してあると思いますが、そのような感じで、教育大綱も人の目に付くようにするのは大事だと思います。本日の御意見を参考にさせていただきます。

そして、堀委員から御提案いただきました、「人材」を「人財」に改める件ですが、こちらには御賛同いただけますか。

各委員 賛成

高岡市長 ありがとうございます。では、そのように改めさせていただきます。その他に何かありませんか。

それでは時間がまいりましたので、これもちまして、第11回水俣市総合教育会議を閉会といたします。皆様と貴重な議論ができましたことに感謝申し上げます。

### 3 閉会 (総務課行政管理室 濱野)

次回の開催時期については未定です。開催にあたり事前に委員の皆様にご通知させていただきます。本日は長時間にわたり、活発なご意見をいただき、ありがとうございました。